

名古屋市立大学医学部附属東部医療センター



□ 連携施設

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能病院である名古屋市立大学病院、地域基幹病院である名古屋市立大学医学部附属西部医療センター、豊川市民病院、公立陶生病院および地域医療密着型病院である独立行政法人労働者健康安全機構 旭労災病院、愛知県厚生農業協同組合連合会 知多厚生病院、愛知県厚生農業協同組合連合会 稲沢厚生病院、三重県厚生農業協同組合連合会 いなべ総合病院で構成しています。また、特別連携施設として、高齢者医療施設である名古屋市厚生院が含まれています。

□ 病院の特徴

31の診療科と40を超える学会認定を持つ、名古屋市の東部方面を受け持つ総合病院です。

救急医療に力を入れ、年間約7,000件の救急搬送を受け入れております。平成27年3月に救急・外来棟をオープンし、平成30年2月には救命救急センターの指定を受けました。また、令和2年1月に入院・診療棟がオープンし、より一層充実した医療の提供を図っています。

心臓血管センター、脳血管センター、低侵襲手術センター、消化器内視鏡センターを設置し、心臓血管疾患や脳血管疾患に対する高度・専門医療に積極的に取り組んでいます。平成25年度からは、地域医療支援病院の指定を受け、地域の中核的病院としての役割を果たしています。

初期研修を修了し更なる臨床経験を積みたい方、専門性を伸ばしたい方を募集しています。同じ市立病院の名古屋市立大学病院や西部医療センターとの連携もスムーズで、より高い専門性を磨くことができます。

□ 研修プログラムの特徴

名古屋市立大学医学部附属東部医療センター内科プログラム

【研修期間】3年

【研修の特徴】

- 本プログラムでは、症例のある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 基幹施設である名古屋市立大学医学部附属東部医療センターは、愛知県名古屋市北東部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核でもあります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病病連携も経験できます。
- 本プログラムの各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修の1年間あるいは2年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- 専攻医の希望に応じて専門研修2年目から内科とSubspecialtyとの並行研修を選択することも可能です。

□ メッセージ

指導医（病院長補佐 前田 浩義）

東部医療センターは、心臓血管センター、脳血管センター、消化器内視鏡センターなどと、ICU・CCU・HCUを整備して様々な救急疾患に即応できる体制および設備を整えており、豊富な救急症例を経験することができます。

また、名古屋市北東部医療圏の中心的な急性期病院である当院と、近隣にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。

内科の指導医も、経験豊富な人材が揃っており、専攻医1人1人に合ったきめ細かい指導が可能です。

当院での研修が皆さんのキャリアの土台として最高のものになるよう、各科の先生方が、じっくり学べる環境作りに努め、あなたを迎えます。目指すキャリアへの熱い想いをぜひぶつけてください。

一緒に頑張っていきましょう！



□ 募集要項

・採用予定人数	10人
・給与/月額	548,000円 (※令和4年度実績、調整額を含む)
・当直回数/月	2～3回/月
・当直料/回	25,000円～52,000円(令和4年度実績)
・その他	研修費(図書費・学会補助)年額20万円あり
・応募連絡先	担当者 臨床研修事務担当 二川、廣江 電話番号 052-721-7171 Eメール res.emc@med.nagoya-cu.ac.jp